



第170回直木賞

『ともぐい』 河崎 秋子 著

己は人間のなりをした何ものか一人と獣の理屈なき命の応酬の果てには。明治後期の北海道の山で、猟師というより獣そのものの嗅覚で獲物と対峙する男。

人間、そして獣たちの業と悲哀が心を揺さぶる、河崎流動物文学の最高到達点！！

『八月の御所グラウンド』 方城^{まきめ}自 学 著

女子全国高校駅伝-都大路にピンチランナーとして挑む、絶望的に方向音痴な女子高校生。

謎の草野球大会-借金のカタに、早朝の御所Gでたまひで杯に参加する羽目になった大学生。

京都で起きる、幻のような出会いが生んだドラマとは……

第171回芥川賞

『東京都同情塔』 九段 理江 著

日本人の欺瞞をユーモラスに描いた現代版「バベルの塔」。ザハの国立競技場が完成し、寛容論が浸透したもう一つの日本で、新しい刑務所「シンパシータワートーキョー」がたてられることに。

ゆるふわな言葉と実のない正義の関係を豊かなフLOWで暴く、生成AI時代の予言の書。

新刊情報

本屋大賞

『成瀬は天下を取りにいく』 宮島 未奈 著

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」。中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るといのだが……。今日も全力で我が道を突き進む成瀬から、誰もが目を離せない！

各界から絶賛の声続々、いまだかつてない青春小説！ 話題沸騰、圧巻のデビュー作。

親子向けの本

こどもの本総選挙1位 『りんごかもしれない』 ヨシタケ シンスケ 著・文

ひとつのりんごをめぐる、次から次へと繰り広げられる、不思議でユニークな世界。

見方を変えれば、りんごひとつで無限に遊べる。発想力で楽しく豊かに過ごす方法がぎっしりつまった絵本です。

こどもの本総選挙2位 『あるかしら書店』 ヨシタケ シンスケ 著・文

その町のはずれの一角に、「あるかしら書店」があります。このお店は「本にまつわる本」の専門店。店のおじさんに「〇〇についての本ってあるかしら？」ってきくと、たいてい「ありますよ！」と言って奥から出してきてくれます。今日もあるかしら書店には、いろんな理由で本を探しにお客さんがやってきます。

こどもの本総選挙9位

『ほねほねザウルス ティラノ・ベビーのぼうけん』 ぐるーぷ・アンモナイツ 作・絵

ティラノザウルスの「ベビー」はトリケラトプスの「トップス」、

ステゴザウルスの「ゴンちゃん」とともに、ぼうけんのたびにでかけます。

めざすはボムボム山！！ さあ、ぶじにたどりつけるのでしょうか？

新刊情報

こどもの本総選挙3位 『大ピンチずかん』 鈴木 のりたけ 作 もあります！

『成瀬は信じた道をいく』 宮島 未奈

唯一無二の主人公、再び。その前途、誰にも予測不能！ 成瀬の人生は、今日も誰かと交差する。

「ゼゼカラ」ファンの小学生、娘の受験を見守る父、近所のクレマー主婦、観光大使になるべく育った女子大生……。個性豊かな面々が新たに成瀬あかり史に名を刻む中、幼馴染の島崎が故郷へ帰ると、成瀬が書置きを残して失踪しており……!? 読み応えますますパワーアップの全5篇！ 前作は本屋大賞の続編！！

新刊情報

『俺たちの箱根駅伝 上・下』 池井戸 潤

池井戸潤の最新長編の舞台は、「東京箱根間往復大学駅伝競走」——通称・箱根駅伝。

古豪・明誠学院大学陸上競技部、名門の名も、今は昔。本選出場を2年連続で逃したチームは、箱根路を走ることが出来るのか？

一方、「箱根駅伝」中継を担う大日テレビ・スポーツ局。「不可能」と言われた箱根中継を成功させた伝説の男から、現代にまで伝わるテレビマンたちの苦悩と奮闘を描く。

第17回芥川賞

『サンショウウオの四十九日』 朝比奈 秋 著

同じ身体を生きる姉妹、その驚きに満ちた普通の人生を描く。周りからは一人に見える。でも私のすぐ隣にいるのは別のわたし。——三島賞受賞作『植物少女』の衝撃再び。最も注目される作家が医師としての経験と驚異の想像力で人生の普遍を描く、世界が初めて出会う物語。

『バリ山行』 松永 K三蔵 著

会社の付き合いを極力避けてきた波多は同僚に誘われるまま六甲山登山に参加する。職場で孤立しているベテラン社員妻鹿があえて登山路を外れる難易度の高い登山「バリ山行」をしていることを知ると……。圧倒的生の実感を求め、山と人生を重ねて瞑走する純文山岳小説。

第17回直木賞

『ツミデミック』 一穂 ミチ 著

大学を中退し、夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日、バイト中に話しかけてきた大阪弁の女は、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗った。過去の記憶と目の前の女の話に戸惑う優斗は一「違う羽の鳥」ほか5話……。鮮烈なる“犯罪”小説全6話

『クスノキの女神』 東野 圭吾 著

神社に詩集を置かせてくれと頼んできた女子高生の佑紀奈には、玲斗だけが知る重大な秘密があった。一方、認知症カフェで玲斗が出会った記憶障害のある少年・元哉は、佑紀奈の詩集を見てインスピレーションを感じる。玲斗が二人を出会わせたところ瞬間に意気投合し、思いがけないプランが立ち上がる。不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々が織りなす物語。待望のシリーズ第二弾！

新刊情報

『^{かみいま}神坐す山の物語』 浅田 次郎 著

書下ろし短編と単行本未収録短編を加え、浅田版「御獄山物語」、遂に完結。

奥多摩の、太古から神を祀ってきた霊山・御獄山の上にある村。そこにある神官屋敷は浅田氏の実家である。彼が少年だったころ、美しい伯母から聞かされた怪談めいた夜語り。それは怖いけれど、美しくも哀しく、どれも引き込まれるものばかりだった。

『母の待つ里』 浅田 次郎 著

40年ぶりに帰るふるさとで待っていたのは、初めて会う〈母〉だった——。大企業の社長として孤独を抱える松永徹。退職と同時に妻から離婚された室田精一。親を看取ったばかりのベテラン女医・古賀夏生。人生に疲れた三人が選んだのは「里帰り」だった。囲炉裏端に並ぶ手料理や不思議な昔話。母と過ごす時間が三人を少しずつ変えていく……すべての人に贈る感涙の物語。ふるさとを、あなたへ。